

福岡県公安委員会活動状況

<定例会の主な議題及び要旨>

令和4年1月13日（木）

【報告事項】

1 飲酒運転に係る「110番通報を呼び掛ける動画」の配信について

（交通部）

警察本部から「飲酒運転は「見逃さない」という県民気運の高揚を図るため、県知事、県議会議長及び本部長が飲酒運転を見掛けた際の110番通報を直接呼び掛ける動画を、昨年12月23日からインターネット等を通じて配信している。なお、今年の飲酒運転に関する通報は1,450件で、そのうち130件は検挙につながっている。」旨の報告があった。

公安委員から「昨年、飲酒運転による交通死亡事故は何件発生したのか。」旨の発言があり、警察本部から「令和3年中の飲酒運転による交通死亡事故は6件発生しており、前年に比べて2件増加している。」旨の説明があった。

公安委員から「暴力団壊滅に向けたリレーメッセージ動画の配信についても先月報告があったが、本部長を始め県知事等が直接県民に呼び掛ける動画の配信は、県民の気運を高める上で、非常に効果があると思う。今後、暴力団対策や飲酒運転対策以外で、動画配信による広報は予定しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「現在、暴力団対策と飲酒運転対策以外で動画配信が決まっているものはないが、今後ともインターネットや街頭等に設置された大型ビジョン等を活用した効果的な広報活動を推進していく。」旨の説明があった。

2 警察署長会議の開催について

（総務部）

警察本部から「令和4年福岡県警察運営指針等について意思統一を図り、県民の安全・安心の確保のために組織一丸となって職務に邁進するため、1月20日に警察署長会議を開催する。会議次第については、来賓挨拶、公安委員長訓辞及び本部長訓示の後、各部長等から指示を行うこととしている。なお、出席者は、県内における新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ縮小する。」旨の報告があった。

3 令和3年中の治安概況について

（警務部）

警察本部から「三大重点目標である「暴力団の壊滅」については、暴力団構成員の検挙人員は前年比で減少しているものの、工藤會傘下組織幹部による持続化給付金に係る詐欺事件等を検挙するなど、暴力団の組織基盤に打撃を与える取締りを行っており、県内の暴力団勢力は8年連続で過去最少を記録している。「飲酒運転の撲滅」については、飲酒運転による交通事故発生件数は前年比で減少しているものの、高濃度のアルコール保有者による事故が依然として高水準で推移している。「性犯罪の根絶」については、検挙率は高水準を維持しているものの、認知件数は前年比で増加している。重点目標である「ニセ電話詐欺の予防・検挙」については、前年まで減少傾向であった認知件数が増加に転じ、特に被害額は一昨年の倍に上っている。「ストーカー・DV・児童虐待等への的確な対処」については、ストーカー・DV事案相談等件数が高水準で推移し、児童虐待に係る児童相談所への通告児童数は年々増加傾向にある。「サイバー犯罪対策の強化」については、サイバー犯罪の検挙件数は前年比で増加しているものの、サイバー犯罪に関する相談件数が急増していることに加え、県内で企業を狙ったランサムウェア

による被害等が発生するなどサイバー空間の脅威はますます深刻化している。「重要凶悪事件の徹底検挙」については、殺人・強盗等の検挙率は高水準を維持している。「高齢者等の交通事故の抑止」については、交通事故発生件数は前年比で減少しているものの、交通事故死者数は前年比で増加し、死者の約半数を高齢者が占めているほか、高齢者が第一当事者の事故の割合が依然として高水準で推移している。「テロの未然防止と災害対策の強化」については、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会特別派遣や関連行事警備を完遂するとともに、令和3年8月発生の大雨による災害では、水陸両用車等を活用した救出救助活動のほか、消防等と共同の上、土砂崩れによる倒壊家屋から被災者を救出している。「社会の変化に適応する警察基盤の強化」については、県民の利便性の向上のため、道路使用許可等のオンライン申請を開始したほか、職員のワークライフバランスの確保や働き方改革を推進するための取組を行っている。なお、県内の治安情勢の指標となる刑法犯認知件数は、前年比で減少し、平成14年に戦後最多を記録して以降、19年連続で減少している。本年も県民の安全・安心を確保するため、職員一人一人の知恵と力を結集し、県内治安の向上に努めていく。」旨の報告があった。

公安委員から「殺人事件の認知件数が前年比で増加しており、特に子供が犠牲となった痛ましい事件が印象に残っている。今後も行政等関係機関との連携を深め、子供の命を守る取組の強化をお願いする。」旨の発言があり、警察本部から「児童虐待等については、関係機関と更なる連携の強化を図り、子供の命を守るため、迅速かつ的確な対応に努めていく。」旨の説明があった。

公安委員から「今後、社会全体の高齢化が進む中で、高齢者に特化した交通事故抑止対策の重要度も高まってくることから、引き続き、実効のある各種対策をお願いする。」「主な治安指標となる刑法犯認知件数の数値が示しているとおおり、県警察による各種治安対策の成果が着実に表れており、感謝を申し上げる。本年は、県内や全国的な治安情勢を踏まえ、重点目標に薬物事犯対策と子供の交通事故抑止対策の強化を新たに盛り込んでいることから、各目標の達成に向け組織一丸となって取り組んでもらいたい。」旨の発言があった。

4 現住建造物等放火事件被疑者の逮捕について

(生活安全部)

警察本部から「行橋警察署及び少年課は、令和3年10月31日、行橋市内において発生した現住建造物等放火事件について、所要の捜査の結果、北九州市戸畑区居住の中學生らの犯行と特定し、1月11日、同中學生を逮捕した。また、共犯の触法少年は児童相談所に送致予定である。」旨の報告があった。

公安委員から「少年らの犯行は、家庭の問題もその背景として考えられるのではないか。同少年らに対しては、これまで行政等による支援は行われていたのか。」旨の発言があり、警察本部から「これまで児童相談所など行政による支援は行われていなかったものと把握している。今後、犯行の動機や背景を明らかにし、事件の全容解明に努めていく。」旨の説明があった。

5 中間市内の保育園における業務上過失致死事件の検挙について

(刑事部)

警察本部から「折尾警察署及び捜査第一課は、令和3年7月29日、園児を送迎バスから降車させる際、人員確認を怠るなどした結果、被害者を同バスに取り残し、熱中症により死亡させた業務上過失致死事件について、所要の捜査の結果、送迎車両を運転していた当時の園長など4人の過失責任を認定し、令和3年12月17日、書類送致した。」旨の報告があった。

公安委員から「今回の事件により、ご遺族を始め、園児や同保育園に子供を通わせる保護者にも精神的なショックが残っていると思われるので、関係機関と連携の上、精神的なケアにも引き続き配慮をお願いする。」、「幼い子供の命が失われ、社会的に耳目を引いた事件であったが、迅速かつ的確な捜査により、当時の園長など関係者を検挙でき、保育に携わる者や行政に対して、警鐘を鳴らすことができたと考えている。」旨の発言があった。

6 暗号資産を悪用した組織的犯罪処罰法違反事件の検挙について

(刑事部)

警察本部から「八幡西警察署、折尾警察署及び捜査第二課並びに秋田県警察、岡山県警察、青森県警察及び警視庁は、令和2年7月、氏名不詳者らが被害者らから架空の投資名目でだまし取った被害金を資金洗浄するため、暗号資産（ビットコイン）に交換した上、その売却代金136万5,528円を被疑者名義の口座に振込入金させた組織的犯罪処罰法違反事件について、1月12日、神奈川県厚木市居住の会社役員の男性ほか1人を逮捕した。」旨の報告があった。

公安委員から「サイバー空間で行われる犯罪は、今後ますます増加することが予想されるので、関係機関と連携した同種事案の未然防止と検挙の徹底に努めてもらいたい。」旨の発言があった。

7 令和3年末における県内暴力団勢力について

(暴力団対策部)

警察本部から「令和3年末における県内の暴力団勢力は130組織であり、前年比で5組織減少した。暴力団構成員等の概数で見ると、暴力団構成員は前年から60人減少して800人、準構成員等は前年から130人減少して550人となっており、過去10年間を見ると、暴力団勢力は右肩下がりで推移している。これは、五代目工藤會の壊滅に向けた各種取組を始めとする、暴力団犯罪に対する徹底した取締りや離脱支援を含めた暴力団排除施策などの成果が表れているものと思われる。」旨の発言があった。

公安委員から「昨年は、第一審判決において工藤會総裁らに対して有罪判決が言い渡されるなど、これまでの暴力団対策の大きな節目となった年であった。引き続き、組織一丸となって暴力団勢力の減少、さらには壊滅に向けた各種対策を強力に推進してもらいたい。」旨の発言があった。

